



削蹄競技大会 日本一

ふかみ てつひさ
深見 哲久 さん

第55回全国削蹄競技大会で、末吉町在住の深見哲久さんが優勝しました。

鹿児島県勢の優勝は、同じく末吉町の平澤津美朗さん以来15年ぶり3回目です。

大会は、10月25日、茨城県水戸市で開催され、各地方大会の上位24名が出場しました。深見さんは、県大会優勝、九州大会でも上位入賞し、この大会に出場しました。体重約700kgのホルスタインの四肢のひづめを削る実技と筆記試験が行なわれ、深見さんは師匠である平澤津さんから譲られた鎌で実技に挑みました。

優勝について深見さんは「優勝カップ(農林水産大臣名譽賞)を手にした今でも信じられませぬ」と話します。

深見さんは徳之島町の出身です。6年前に奥さんの故郷である曾於市へ移住し、削蹄の仕事と出会いました。最初の2年間は、平澤津さんの下で見習いをしてきました。「牛に蹴られたことでもあります。師匠(平澤津さん)の全てをまねしようと必死でした」と深見さん。現在では、年間約2200頭の削蹄をしています。

ます。

平澤津さんは「(深見さんは)牛について何も知らない中で、この世界に飛び込んできた。6年目での日本一はたいしたものです。牛に対して、素直に熱心に取り組んでいるからでしょう」と弟子の快挙をたたえます。

深見さんは「畜産農家あつての削蹄師」と話します。「これも平澤津さんから学んだことです。削蹄師は、常に農家の方々に支えられながら仕事をしています。これからも、農家の皆さんのために技術を磨きたいです」と熱い思いを語ってくれました。

来年の全国大会で模範演技を披露することが決まっている深見さん。これからの活躍が楽しみです。



全国大会で競技に挑む深見さん